

日本における果樹栽培が 気候変化から受ける影響について

月精 尚輝

【要旨】

本論文は、気象データを用いて日本の果樹栽培地域の気候変化の実態を調査し、果樹栽培への影響を分析し、考察したものである。第1章では研究方法と資料について述べた。第2章では解析対象としたウンシュウミカン、リンゴ、ブドウの栽培地例として、和歌山県、青森県、山梨県の1980年～2019年の気象状況を調査し、その結果を述べた。第3章では第2章の調査結果を基に、果樹ごとに、それぞれに設定されている「栽培に適する自然的条件に関する基準」に照らし考察した。また、果樹栽培地ごとの1980年～2017年の結果樹面積、収穫量、出荷量の3項目についても調査を行い、気候変化との関係について考察した。第4章では実際の影響と適応策を調査し、果樹ごとに述べた。また今後予測される変化と影響についても、先行研究を基に述べた。結論では、第3章及び第4章に基づき、地球温暖化に伴う気候変化の果樹栽培への影響についてまとめた。

【講 評】

本論文は地球温暖化に伴う気候変化の実態を調査し，果樹栽培への影響の可能性について考察したものである。研究対象の選定や研究方法は先行研究に依拠し，客観的な気象データをベースに検証を行った。したがって，本論文が示した分析結果には一定の信ぴょう性があると考ええる。また，論文として題目や章・節の設定，資料の引用，図表の使用，あるいは参考文献の表示等は適切である。経営学の視点から果樹栽培についての分析を付け加えると，商学部の論文としてより優れた作品になるが，優秀卒業論文として評価するに十分な内容を備えたと判断した。学部学生の卒業論文としてぜひ手本にしてほしい秀作である。